

第1回町田市公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時 2016年11月8日(火) 15時～17時

場所 町田市役所 2-2会議室

出席者 委員長 市川宏雄氏(町田市未来づくり研究所所長)

副委員長 山重慎二氏(一橋大学経済学研究科 国際・公共政策大学院教授)

委員 神山和美氏(独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事)

前島正光氏(NPO法人顧問建築家機構代表理事)

岩崎俊男氏(町田市町内会・自治会連合会副会長)

大塚信彰氏(町田商工会議所副会頭、欠席)

小林祐士氏(一般社団法人町田青年会議所次期理事長、欠席)

通地康弘氏(町田市立中学校PTA連合会会長)

大倉博志氏(成瀬コミュニティセンター運営委員会委員長)

増山正子氏(市民委員)

吉田 努氏(市民委員)

1. 政策経営部長挨拶

これまでの取組みと背景について説明後、具体的施設をどうしていくのかについて再編計画で示す等の検討内容について説明。

2. 委嘱書交付

委嘱書配布のみ

3. 委員の紹介

司会より紹介後、一言ずつ挨拶。委員紹介後事務局の紹介。

4. 委員長・副委員長の選任

委員推薦により市川氏が委員長として選任、市川委員長の指名により山重氏が副委員長に選任。

4. 事務局より、議事①「町田市公共施設再編計画」の策定にあたって、②町田市の状況について、③維持更新費シミュレーションについて説明

5. 市川委員長より、先進事例について紹介

市川委員長より、パワーポイントの資料を使用して、学校施設の複合化、学

校プールの民営化、廃校活用、水道事業の民間活力活用等の先進事例を紹介。

6. 議論 1

副委員長：

- ・ 国立市でも議論をしているが、ピーク時に合わせて整備された学校を減らしていくことは考えざるを得ないが抵抗感は強い。
- ・ 魅力あるもの、魅力あるまちづくりのために、公共施設を小さくするという提案をしていきたい。

委員：

- ・ 長期的・安定的に公共サービスを継続するために、保有形態の見直し、遊休資産の活用、広域連携等も考えられる。
- ・ 官民連携、市民連携について、PFI や指定管理者制度等があるが、民営化と一緒にした議論とならないように気を付ける必要がある。
- ・ 市として、民間をどのようにモニタリングをしていくかが、いろいろな手法を考えていく上で重要である。

委員：

- ・ 大きなテーマであり、かなり思い切った改革をしないと難しい。町田市は、住宅地が多いが、住み続けられるまちにするための、公共施設の役割を考えていくことが必要である。
- ・ 市民の協力が必要だが、市民の意識・考え方を変える必要がある。本当に行政でやらなくてはいけないものは何か、複合化を進めていく中で、量の改革と質の改革の両方が必要である。

委員：

- ・ 市民代表として、自分たちに関わってくる大事な話をとらえている。資料を読んでいるが、この通り進めていくのは難しい。中心市街地やせりがや公園など、計画はできても前に進まないことも多い。
- ・ 町田市自治会連合会では、60 くらいの会議に呼ばれており、なかなか会全体の意見を集約して、会議に臨むことが難しい。自分の地域の話をするしかない。
- ・ 学校プールの話はよくわかる。いくつか考えさせられる事例もあったが、地域の人を使いにくくなる、といったことでは困る。
- ・ 高齢者支援センターが15 から12 へ減少する中で、例えば、窓口を他の施設との複合化で増やすといったこともありうるのではないかと。

委員：

- ・ 学校が半分を占めている中で、地域においてどのような存在としていくのか

が改革に向けた議論の中心になるのではないか。これからの子どもたちに好奇心や刺激を与えられるようなものが必要である。IT 化等時代は変わってきている。

- ・ ケアサービスとの複合化も良い事例であるし、小中一貫校化もテーマとして考えられる。

委員：

- ・ 市民もそうだが、まずは町田市考え方を変えなくてはいけない。今回、横割りで進めていくのであれば、可能性はある。
- ・ 実現性を考えた場合、まず小中学校に手をつけなくてはいけない。今の学校教育は聖域とされるが、教育論は一切外さなくてはいけない。
- ・ 現在の学校の機能と再編後の機能をしっかりまとめて、どういったものが必要でどういったものがいないのかをみていく必要がある。
- ・ 地域特性をきちんと分析して、それぞれの住民ニーズに応じてサービス形態を変えていく必要がある。
- ・ 今回、委員・町田市の姿勢からそうした議論に耐えられる兆しが見えた。ターゲットを小中学校に絞って、統合化等を行っていく。

委員：

- ・ 財政が非常に重要である。どこにどういう費用が掛かっているかを把握する必要がある。
- ・ PFI/PPP は適しているところと適していないところを分ける必要がある。ソフト面でものを考えなくてもいいのか。
- ・ 町田市の学校はクラス数に大きな差があるが、簡単に縮小してよいものか、疑問である。
- ・ ガラス工芸館等よくわからない。いろいろな委員会で検討がされているが、連携して議論がされているのだろうか。文化と教育の予算がしっかり確保できるような、未来を担う人材を育てる町にしたい。

委員：

- ・ 要はお金がなく、今までのレベルは維持できないものと理解した。
- ・ 町田は他と異なり、町田駅では40万人（2015年度 51万人）いるが、多くは市民でない人も含まれている。
- ・ 地域住民にニーズを聞いても、新たな要求が出てくるだけである。
- ・ 民間が公共施設を引き受けてもペイはしない。複合化して民間で運営したとしても、予算は膨らむだけではないか。そこは心配。
- ・ 4つの基本方針の中で、どう考えていくかが重要である。お金がかからなくなる方向になるかどうかポイントである。

7. 事務局より、議事④施設機能毎の実態・課題及び基本的な検討の視点からの課題の整理 について説明。

8. 議論 2

委員長：

- ・ 4つの視点はかなり良い見方だと思うが、他に追加する視点等はあるだろうか。

委員：

- ・ 機能分類を26に分けているが、もう一段細かくできないだろうか。学校であれば、プール、体育館、厨房等、機能が見えるような表にすることによって、新たなアイデアが出てくると思う。

委員：

- ・ 機能はサービスのため、サービスはニーズのためにある。地域特性・ニーズにあったサービス・機能が必要である。
- ・ 市の特性として、非常に市域が長いところがあり、すぐとなりの横浜市に入ればすべての機能が使えなくなる。隣接市との連携を考えないといけない。

委員：

- ・ 受益者負担の適正性の議論を入れるべきかどうか、個人的に迷うところだが如何なものか。

委員長：

- ・ 前半戦は機能を中心に議論をし、後半戦で受益者負担やPPP等を議論することになる。

委員：

- ・ 図書館では予算が減って魅力がなくなり、利用者が減っているところもある。利用者が減っていることだけをにとって施設の改廃を議論するのは如何か。

委員長：

- ・ 図書館は本を借りるために来ている人がどれぐらいいるのかというテーマもある。そうであれば図書館と高齢者のデイケアをセットにすることも考えられる、家から遠くなった場合にはコミュニティバスをアクセスとして提供するといったことで市民に納得してもらえるのではないか。

委員：

- ・ 個々の建物のあり方など一つ一つ検討する中で、統合できるものはたくさんある。考え方を変えていく必要がある。

委員：

- ・ 老人施設は高齢者の2%しか使っていないという説明があったが、利用に魅力がないということもある。公共と民間の組み合わせでもっと魅力が出てくるのではないか。
- ・ 利用者が期待するようなものを作れば、利用者はお金を出すのでは。
- ・ ハード面はどうにでもなるので、ソフト面が大事である。良い発想は利用者から出てくる。但し、最初から大胆なことを出すと、抵抗が大きすぎてしまい、現実的なところに落ち着いてしまう。

委員長：

- ・ 2%しか利用が無いのは魅力が無いだけでなく、サービスそのものがニーズと違う可能性もある。サービスの中身まで踏み込めるかが課題である。

委員：

- ・ 小学校と中学校では、保有設備の違いもあるが手すりの高さや机などの大きさ等も異なるので分けて考えるべきではないか。

委員：

- ・ 金がないのであれば、減価償却費をゼロにすることを考えた方がよい。例えば中学校や小学校の敷地は立地がよいので、土地を提供して建物は民間で建ててもらうことも考えられるのではないか。立地により考え方を变えることも必要である。
- ・ 複合化することによりコストは減らせる。肝心な点はソフトのところにある。

委員：

- ・ 4つの視点にある結論やコストの違いにその理由を示してもらえるとより良い。

委員：

- ・ 公共施設での障害者雇用が守られるか、ということが心配になった。
- ・ コミュニティバスは、民間の場合、ニーズがないと撤退してしまう。

委員：

- ・ どのように財政が使われているかは公開されているのか。

事務局：

- ・ 町田市では、新公会計制度が導入されており、課別・事業別行政評価シートというかたちで各事業のコストについて開示しており、ホームページでも公開されている。

9. 閉会

事務局より次回日程等の連絡後、閉会。

以上